

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 1 4	独立行政法人酒類総合研究所
<b>題名 (原題/訳)</b>	
<p>Effects of red wine consumption on serum paraoxonase/arylesterase activities and on lipoprotein oxidizability in healthy-men.            赤ワイン摂取が健常人で血清ラオキシナーゼ、アシルエステラーゼ活性とリポタンパク質酸化に与える影響</p>	
<b>執筆者</b>	
Sarandol E, Serdar Z, Dirican M, Safak O.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>	
J Nutr Biochem. 2003 Sep;14(9):507-12.	
<b>キーワード</b>	
赤ワイン、パラオキシナーゼ、アシルエステラーゼ、リポタンパク質酸化	
<b>要 旨</b>	
<p>適度な飲酒によって心臓疾患のリスクが低くなる事に関しては一般的に認知されているが、赤ワインの心臓保護作用についてのメカニズムは明らかにされていない。パラオキシナーゼはリポタンパク質の酸化を阻害するので、血漿中のパラオキシナーゼ活性が適度な飲酒による心臓疾患減少作用のメカニズムである可能性が考えられる。そこで、本研究では赤ワインの摂取が血清パラオキシナーゼ活性/アシルエステラーゼ活性に与える影響、さらにリポタンパク質酸化性に与える影響について、健康な男性被験者を用いて調べた。14人の健康な男性被験者に3週間0.375g/kgのアルコールを摂取してもらった。パラオキシナーゼやアシルエステラーゼ活性は分光光度計により測定した。アポリポプロテインBを含むリポタンパク質の酸化性は硫酸銅とインキュベートして、沈殿させる方法により分離後、測定した。その結果、パラオキシナーゼ活性は変化しなかったがアシルエステラーゼ活性は赤ワイン摂取後有意に減少した。赤ワイン摂取後の硫酸銅による酸化誘導においてアポリポプロテインB含有リポプロテインの感受性減少も観察された。</p> <p>以上の結果から赤ワインはリポタンパク質を酸化から保護する作用があるが、血清中のパラオキシナーゼ活性に有意な変化はないと考えられる。</p>	